

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872200619		
法人名	社会福祉法人はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホーム		
所在地	兵庫県加古川市野口町長砂90-1 (電話) 079-421-7156		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	2008年12月8日

## 【情報提供票より】(H20年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年2 月24 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	22 人
職員数	22 人	常勤 9 人, 非常勤 13 人, 常勤換算19.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建、鉄骨造り	
	が1階建ての1階部分	が2階建ての1・2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	100,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240万円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	700 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

	22 名	男性 4 名	女性 18 名
要介護1	2名	要介護2	6名
要介護3	4名	要介護4	6名
要介護5	4名	要支援2	
年齢	平均 84.9 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村内科医院、中村歯科医院
---------	---------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・当グループホームは所属する法人の他の施設と隣接していて、周辺には自然も残っている住宅地の中にある。法人の理念のもと、地域の中で認知症の利用者が最期まで尊厳を持って暮らせる支援に努めている。法人は運営推進会議で前年度の事業報告を行う等経営の透明性に努めている。職員は利用者の残存能力を引き出すケアを重視して利用者が介護を受ける人ではなく、ホームの主人公になるよう日常の取り組みに配慮している。また医療連携体制を活かして医療処置を受けながらの生活の継続や重度化した場合や看取り支援も行っている。
--

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・職員の異動が多いことを気にする家族もある。事業所としては職員の異動は法人運営上やむをえないので、事業所の玄関に職員の顔写真と名前を貼って家族に分かるよう配慮してきたが、家族への説明はいつその工夫が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ・全ての職員で自己評価を行なった。評価を通して管理者は職員の観察力や思わぬ能力を発見した。職員同士は互いに気づきを共有する機会になった。事業所は評価を通して全員への意識づけをしたいと取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) ・事業報告や事故報告、利用者のターミナルに関する報告等事業の透明さが周知でき、また家族からの相談に他の家族、民生委員、法人施設長からの意見や助言をする等の意見交換の場になっている。事業内容を外部にオープンにして意見をもらいサービスの質の改善に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ・家族会はないが運営推進会議に数名の家族が出席し意見の交換も行われ、法人の介護者の会でも相談できる体制が整っている。しかし家族同士での意見交換の場はなく、あくまで個人的に相談する範囲に留まっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ・法人は介護者の会や認知症サポーター講座を開催する等幅広く地域との連携を図っている。利用者は職員の気配りで近所の人と打ち解けて話をしたり、子どもにも声かけしたり近隣住民との接点が深まってきている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念を共有し、グループホーム独自の理念は作っていない。地域の中で認知症の人が生活していること、利用者の最期までの尊厳を守ることを理念と考えている。		・法人の理念は利用者全般に共通するものであるが、認知症の利用者と地域との関わりを地域に理解してもらい、利用者の尊厳を守るグループホームの独自の理念を検討されてはいかがか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・グループホーム会議や日々のミーティングで残存能力を活かし、利用者が暮らしの中で何を求めているか、職員の言葉遣いは適切か等確認して理念を実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・散歩や買い物については、近所の人と交流に心がけ、地域の行事に利用者が参加し、ホームの行事に参加を呼びかけている。法人主催の介護者の集いに地域の人々も参加、情報提供や相談、意見交換もなされている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・非常勤も含め全職員で自己評価を行った。評価を通して職員同士は他者から新たな気付きをもらい、管理者は職員の観察力や思わぬ能力が把握できた。職員は「残存能力を引き出す」ことを重視している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・民生委員、地域代表、家族、職員等で定期的開催している。事業報告や事故報告、行事報告等を行ってホームの実情理解と意見交換を行っている。</p>		<p>・市関係者がほとんど出席していない。出席して実情を理解し地域密着型サービスへの協力を求めることを望みたい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議の報告や、事故報告の提出等を通して市担当者と意見交換している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族宛に法人全体の報告を月一回、健康状態に変化のある時や金銭管理等は随時行っている。利用者の暮らしぶりは家族来訪時に報告し、訪問のない家族には定期的に近況報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族来訪時は意見が出しやすいよう声かけしている。家族会はない。運営推進会議や介護者の会に家族が参加するので、それらの場を活用して家族の意見等を反映させている。</p>		<p>・運営推進会議にも5～6名家族が参加、介護者の会も毎月家族の参加がある。家族同士で話せる時間を作って意見が出しやすい工夫をされたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人の方針で定期異動がある。利用者は特に混乱しないが、家族からの意見はある。玄関に職員の名前と顔写真を張り家族等へ配慮している。入浴等は慣れた職員が対応して混乱がないよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修、2市2町のグループホーム勉強会、法人内研修等に積極的に参加している。新しい知識を得たり、他のグループホームの職員から教えられるものが多い。移乗や入浴は現場で相互に教えあっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2市2町のグループホーム連絡会を2ヶ月に1回開催し、情報交換、共同で講演会や映画会なども開催している。具体的な介護方法や忘年会等のストレス解消も含め相互交流をしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前、ホームを見学したり、自宅を訪問して馴染みの関係を作り入居にいたっている。入居当初は家族との連絡を密にし、在宅での様子を聞いたり、来訪してもらう等の協力で、混乱を最小限にとどめるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・生活全般で利用者に決定権を持ってもらう機会を多く作り、職員と一緒にしている。沈んでいる人には声かけして気持ちを共有したり、生活の知恵を教えることや、職員を励ましてもらい支えあう関係ができている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・思いや意向は、表情や利用者同士の会話の中、お茶を飲んだり、散歩に行った時等のふとした言葉から把握している。聞き取ったことを日誌や個人ノートに記録している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者の希望や意向を参考にし、担当職員が家族、医師、看護師話し合い原案を作り、会議で検討してケアプランを立てている。利用者の中にはできることの限られた人もいるので、職員間で話しあい協力し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・モニタリングは毎月行っている。利用者の細かな変化に気づいたら、個人ノートと日誌を参考に話し合いをもち、必要に応じ見直しをしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・ユニットによっては、本人以外の同居人として夫婦で生活できるスペースの居室がある。24時間体制での訪問看護や主治医との連携も確保されている。法人内他施設の行事には、利用者の希望で自由に利用参加できる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・入居時に利用者、家族の希望で主治医を決め往診又は受診している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・看取り、終末期ケアの取り組みは入居契約時に説明している。ホームとして可能な限り在宅での支援をしているが、家族、主治医とは状況変化毎に十分な話し合いを行い、方針を確認共有している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>・日頃の様子からその人の誇りやプライドを把握し、言葉かけや接し方に注意している。時間とともに慣れ親しんでくることから起こる弊害については、職員間或いは個々で気持ちを引き締め取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・食事、入浴、行事等への参加には声かけはしているが、基本的には一人ひとりのペースを優先して職員は動いている。居室で個別の時間を取るなど思いを把握するよう努めつつ、日々の体調管理には注意を怠らないようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・主に職員が調理しているが、利用者と一緒に食事をしている。調理方法や盛り付け等は個々の状態にあわせているが、季節の食材や味付けなどについての会話を楽しむ工夫をしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・意思確認が困難な利用者にはこれまでの情報をもとにくつろいで入浴できるよう支援している。シャンプーや入浴剤等一人ひとりの好みに併せた入浴を行っている。家族の声かけなどの協力を得ている人もいる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・調理の下ごしらえや食事の配膳後片付け、洗濯や掃除などの家事分担や、映画、カラオケ、将棋などの趣味におしゃべりも楽しみのひとつとして支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・自由に出入りしている人もいるが、心身状況の低下により外出が出来にくくなってきている人が多い。併設施設の行事に声かけ等をして参加を促すよう努めている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・玄関はセンサーやブザーで出入り確認しているが、施錠はしていない。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・日勤、夜勤を想定した年2回の消防訓練を行っている。ホーム周辺の法人他施設とは連携は取っているが、近隣地域の人たちにも行事の際には協力をお願いしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・普通食以外も個々の状況に併せた食事形態を取り、栄養士が立てたメニューで必要量と栄養バランスを図っている。飲料は飲みたいときに好みのものが取れるよう希望に添える配慮をしている。摂取量は記録している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・一般家庭のリビングを広くした感じの居間で日々の食事づくりなどの家事がなされ生活感が感じられる。日々の人の出入りも自由でオープンな雰囲気である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・家族の写真や手紙などを飾ったり、使い慣れた日用品を身近に置いている人、すっきりと整頓されている人など個々の暮らしぶりが垣間見れる。家族が度々来訪し、一緒に過ごしている様子もうかがわれる。</p>		

 は、重点項目。